



まちびと写真館

其の四

町田市相原町 1964年

撮影した人 横溝 要祐^{ようすけ}氏

横溝さんは当時24歳。相原十字路でヤシカの一眼レフを構え、その瞬間を待った。近年は富士山を撮影することが多く、受賞歴も多数。



相原を駆け抜けた オリンピックの聖なる火

昭和39年10月8日。町田市を東京オリンピックの聖火が唯一通った場所がある。当時、相原町の町田街道は砂利道で道幅も狭かった。前日に降った雨のせいで道もぬかるんでいたという。

聖火は甲州街道の高尾方面から市境を超え、大戸から町田街道を駆け抜け相原坂下から国道16号を御殿峠へ駆け上った。走行距離は約7キロ。これを4区間に分け、それぞれ1名の正走者と2名の副走者、20名の伴走者、総勢23名で走ったという。

町田の第1区間を副走者として走った相原町の榊信忠^{さかきののぶただ}さんは当時、日大明誠高校の2年生。野球部で活躍するスポーツ少年で、聖火ランナーに選ばれた。「市境で八王子市長から町田の青山市長に聖火が渡された後、23名で走りました。事前に相原小学校で何度か練習をしましたよ。全然ギャラリーがいなくてね（笑）、走った後は聖火の形をした記念品ももらいました。」そう当時を振り返った。

——あれから52年。町田街道は舗装され、相原の駅舎も大きくなった。歴史の1ページを飾ったあの日のことを覚えている人も少なくなっている。